

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	言わぬが花? : 非言語的コミュニケーション
Author(s)	ピーター ウィスカー,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1993 : 143 - 152
Issue Date	1994-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039537
Right	
Relation	



言わぬが花？非言語的コミュニケーションはじめに

ニュージーランドで高校生の時、日本語の勉強を始めました。大学に入っても日本語の勉強を続けました。日本に行っている学生は行っていない学生と比べてやはり上手です。日本に行っている学生は発音、文字、聞き、文化などが他の人より良くできます。というのは、めずらしくないものではなくても、その学生の経験が他の人よりも有利な立場を与えたもだと良く分かります。

すなわち、その学生は自分の経験と授業の勉強を関係させることができるそうです。確かに日本語の言葉の意味と気持ちがよく分かるようになっていきます。

しかし、月夜に厳島神社の美しい光景は言葉でどう説明していいでしょうか。また、和室で千利休（1522-1591）の専門、お茶をいただく時、詫び・寂の思想が言葉でどう説明していいでしょうか。西条の酒祭りに参加して、法被を着たり、太鼓を叩いたり、おどりことのふんい気を言葉でどう説明していいでしょうか。

人間の学ぶ方法といえば、複雑なものでしょう。基本的に人間は5感；視、嗅、味、聴く、覚があって、第六感もあります。よく考えれば、言葉を表情することができる感は二つしかありません。文字で言葉を読め、言葉を喋る。非言語的な感は四つあるでしょう。

でも、もし、コミュニケーションするためには非言語的コミュニケーションが、そんなに重要なものだったら、なぜ、私は日本語を勉強している間に、日本人の非言語的コミュニケーションのことをほとんど教えてもらっていないのでしょうか。

ハイ・コテキストでコミュニケーションする人々といわれている日本人には人間関係について、非言語的コミュニケーションが重要なものではありませんか。

また、日本語

また日本語に熟達するためには、言葉を使う時、気持ちも分かるように、非言語的知識が大切ではありませんか。この質問を心に留めておいて、さまざまな方面から非言語的コミュニケーションを話し合いたいと思っています。

(2)

1 非言語的コミュニケーションは何でしょうか

一般的にコミュニケーションするために、一番簡単に分かりやすい方法は言葉を話すことです。しかし人がコミュニケーションする時、言葉を言わなくてもわかる場合もあります。その時は、「非言語的コミュニケーション」と言うことができます

また、非言語的コミュニケーションは国によってたいへん違う意味を持つ場面があるので、コミュニケーションの中で時々誤解が起こってしまう。この現象は、外国人と日本人もコミュニケーションする時にさまざまな誤解があるので、日本人の非言語的コミュニケーションを研究します。

(1) 高コンテキスト文化と低コンテキスト文化

ニュージーランドの友達に「ラグビーの練習終わってから、マクドナルドでも一緒に食べに行きませんか」と聞いた時、「いいえ、レポートを書かなければならないので行けません。」と答えた。しかし、日本では、日本人の友達に同じ質問を聞いた時、「行きたいですけど……」と答えた。日本人の友達のあ合場は、行けるかどうかよく分かりませんでした。でも、よく分かっているのは、ニュージーランドの友達が低コンテキストコミュニケーションを表していますが、日本の友達は高コンテキストコミュニケーションを表しています。高コンテキストコミュニケーション文化の中には、人があまり直接とはっきりにいわなくても人がだいたい分かる。例えば、日本、サウヂ・アラビア、フランス、中国です。低コンテキスト文化は意味が言葉からはっきり分かれる。高コンテキストコミュニケーション文化と低コンテキスト文化の違いは、有効なコミュニケーションするために影響があります。日本には複雑なものが「エラビ」と「アワセ」と言う思想もあります。しかし、そのことがここで詳しくに説明できない。

(2) 非言語的コミュニケーション例

- 1 ボディランゲージ： 身振り、顔の表情、目の動き、姿勢
- 2 声： 声特質（大きい声、小さい声）、笑い方、あくびする、ぶうぶう言うする
すこしの国の人が日本人より下大きい声で喋れます。とくにイタア人とロマニア人です。
- 3 空間： 個人空間の使い方
- 4 身体特徴／容姿： 容貌、毛の色、洋服、人工物

(3) 沈黙

ことわざは長い間日本語をはなす人々の間で、使われ、生活に根づいたものである。短い言葉の中に人の心に強くうったえるふかい意味を有するものが多い。特に沈黙についてのことわざが多くて大事なことだと言われています。

例えば、 雄弁は銀、沈黙は金
 言わぬが花
 言わぬは言うに優る
 下手の長談義
 知る者は言わず、言う者は知らず

(4) 微笑

笑ったり微笑する時は、普通の人間が喜びを感じている。しかし、日本人には、不快、怒り、悲しみことを隠ために表情も使われているそうです。Lafcadio Hearn (1989)*

昔の武士道が大変苦しい立場にある時、表情を顔にださないことは、武士道の一つの生き方人生です。新渡戸稲造は、名著『武士道』の中で武士の考え方をよく説明しています。「武士は食わねど高楊枝」武士というものは、貧乏で空腹でも楊枝を使って満腹のふりをするものである、の意味で、気位の高い人はその誇りを汚すようなことをしないことの例え。

もちろん、どこの国でも無作法になることを心配します。一般的に、無作法なことをする、場合は西歐人がだいたい静かになる、引き下がる／身を引く、怒りを表示します。日本人にはにこにこする、くすくす笑う、事を笑って紛らします。

従って、個人の行動ばかりでなく思想や考え方にまで集団の力が入り込んでいる。これは往々にパーソナルにしてあらゆる分野に人間関係が侵入してくる可能性を持っている。こうなると、どこまでが社会生活で、どこからが私生活なのか区別がつかなくなるという事態が、往々にして出てくるのである。

2 儒教との関係

儒教は5世紀初頭に朝鮮半島を経日本に伝わりました。両親に対する孝行、下位の者の上位の者に対する忠義などを強調し、日本社会の形成・発展に大きな影響を及ぼしました。江戸時代には、幕府の鎖国政策によって、外国といえば、わずかにオランダと中国の情と交渉があったのみである。

Trade between Holland and Japan took place at the port of Dejima in Kyushu. It was here that a few scholars were allowed to undergo Western studies 𠄎

Chinese classical studies were also an important part of education during the Edo period. It was through these studies that confucianism had a profound effect on Japanese society. However, there were few native Chinese teachers in Japan at that time so scholars of classical Chinese studies read the Kanji with the same meanings in Chinese but developed their own pronunciation.

(4)

Two Methods Of Learning 江戸時代

Beacuse of the shortage of Foreign Language teachers, the Japanese developed their own 'irregular method' of learning Dutch and Chinese.
The 'irregular method' involved;

- 1 pronouncing each word syllable by syllable regardless of the correct foreign pronunciation
- 2 Forming sentences in a Japanese construction, SNV rather than the native sentence construction SVN used for both English and Chinese. S=Subject V=VERB N=NOUN

Regular Method

I¹ can⁴ speak⁵ English² very³ well¹
 アイ カン スピーカー エンゲレス フェアリ ワエル

Irregular Method

I English very well can speak
 アイ エンゲレス フェアリ ワエル カン スピーカー

ジョン万次郎 contributed a lot to promote Western studies during the 江戸時代 after returning from his adventure to America.

Confucianism is based on the idea that proper human relations are fundamental in order to maintain "harmony" 和

人間関係

Man..... Lord
 Son..... Father
 Younger brother... Elder brother
 Wife..... Husband
 Freind..... Friend

宗教の位階制度

親子は一せ
 夫婦刃は二せ
 主従は三せ

The relation of parent and child endures the space of one life only; that of husband and wife for the space of two lives; but the relation between master and servant continues for the period of three existences." [Lafacadio Fern 1989]

School children even in the Meiji period would recite confucian values in class.

c h u	忠
k o	考
j i n	仁
g i	義
r e i	礼
c h i	知
s h i n	信

Confucianism was based on the theory that if the relationships are correctly maintained at each five levels there would be complete harmony. Shotoku Taishi wrote The Seventeenth Article Constitution.

Article 1 "harmony is to be cherished"

Confucius was opposed to a society based on law rather than virtue. He believed that law would just encourage people to find ways around it. People would then know no sense of shame. The fear of shame is still one of the most potent social controls in Japanese society even today.

武士道 The code of the warrior. 道 means 生き方

武士道 was a militaristic discipline based on a combination of 儒教、神道、仏教。

3 ジェスチャー

人間がコミュニケーションをする時、いろいろなジェスチャーをします。

時々、外国でも同じジェスチャーがあるのに意味は違う場合もあります。



1 OK

2 おいで

3 私

(6)

(1) 私の経験

手の振り方については、ニュージーランド人は日本にいれば、日本人の手の振り方に混乱させられそうです。私はいつか、日本のガイドが団体の西欧人観光客を集めるの意味するために、手を振り始めたのを見たことがあります。けれども何人かの観光客がさようならの振りを始めました。なるほど、日本人の「おいで」の手振り方はニュージーランドで反対の意味があります。

ほかの日本人のボディランゲージについてですが、日本人は自分のことを話している時、手の平で鼻を指す。ニュージーランド人には指で体を指す。ある新しい日本語の先生がこのジェスチャーを使った時は、外国の学生が誤解してしまいました。この先生が自己紹介した時自分の鼻を指しながら「わたしは先生です」と言った。でも、皆の学生は「これが、わたしの鼻です」という意味を聞いてしまった。だから学生は言葉を分からなくても、ジェスチャーが分かるから大丈夫と考えたそうです。

OKのジェスチャーは二つの意味がある。普通は大丈夫という意味ですが、お金のことを話している時使っています。

(2) 礼儀正しさ

日本では、礼儀正しく振る舞うことが、人間関係のなくてはならない部分です。こういう礼儀正しく振る舞うことは孔子の考える「和」を保つのに役立ちます。

当事者以外の人と用いるジェスチャーはよくある事だそうです。



何かお願いごとがある意味を表わすジェスチャーもよく使われるそうです。

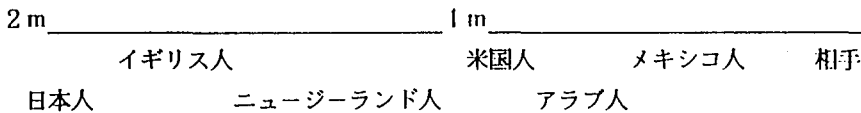


4 新体言語と身体的距離

(1) 空間

人間らしい品性、自由、プライバシー、安全を得るためには物理的、社会的、心理的な空間の占有が必要である。それはいずれの文化においても複雑に作り上げられており、文化間に大きな相違があるから慎重に配慮することが必要である。[Leger brosnahan 1988]

西欧人に対して日本人は、だいたい立って話す時、相手からちょっと離れたら、気楽な感じがあるそうです。



財界とゼスチャー

近年の技術進歩とコンピューターでもある世界の金融会はまだまだ、人間の簡単なしぐさを当てることが信じられないものでしょう。東京証券取引所で、毎日ひとが手サインの表示を使っています。

手サインの表示



「指で数を示す」

日本式、相手に掌側を向け、人差指を立てて(1)、以下、中指(2)、薬指(3)、小指(4)、親指(5)と加えて行く。6は、左手の掌に右手の人差指を当てて示す。以下、ゆびを加えて数えるときには、指を折している、10で両掌を拡げて示す。

これに対し、[英]は特に定まった方式がなく、日本式でも良いが、相手に手の山側を示す、6-10で両手を指して離してしめすなどの違いが見られることもある。

[ジェイムズ・カーナップ 1987]

数を数える (日本式)

(8)

会社の名前も手サインがあります。

5 本音と建前

この二つの語は個人の本心と社会的に制限りされた意味という対立観念として日常よく使われています。

例えば 朝日新聞アンケート12月1981年

質問1 「女の人の社長がだんだん増えていることが、賛成ですか、反対ですか」

答え 賛成 61% 反対 30%

質問2 「女の人の社長と働きたいですか。」

答え はい 22% いいえ 56%

公の場では和を求めて対立を避けますが、くつろいだ場では無礼儀と相成るのです。

大学のクラブの中には先輩と後輩の関係がまだ強いですが、でも、現在、日本は多重多様の文化的価値観をもった個人主義の社会になろうとうしていますので、人々は昔ながらのコミュニケーションの様式をやめ、もっと自己主張を強くする言語使用の様式を身に付けてきているようです。[本名信行、ベイツ・ホッフア 1986]

結論

世界には日本語を勉強している人の数がどんどん増えて居ます。日本語教は世界で大切なものになるでしょう。でも、きのうの教育とあしたの教育はどういう変わるでしょうか。

新渡戸稲造（1862-1933）は、名著『武士道』の中で、

'Is it not true that, in the study of languages, ethics, religions and codes of manners, he that knows one knows none.'

従って、異文化間コミュニケーション熟達するためには、外国語に熟達するだけではたりません。非言語的コミュニケーションも重要です。

参考文献

- ・BROSNAHAN, Leger 1988 “しくぎの比較文化” Taishukan Publishing Co Ltd, Tokyo, Japan
- ・平川 克美、1991 ‘Salaryman in Japan’ JTB Inc Japan
- ・WILKINSON, Endymion 1991 ‘Japan Versus the West; Image and Reality’ Penguin Books England
- ・LEGGETT, Trevor 1987 ‘Zen and the Ways’ Charles E Tuttle Company, Inc Tokyo Japan
- ・NATSUOKA, Reiko, SAKAMOTO, Nancy 1981 ‘Mutual Understanding of Different Cultures’
- ・MUSASHI, Miyamoto 1982 ‘The Book of Five Rings; The Real Art of Japanese Management’ Bantam Books
- ・PEASE, Allan 1992 ‘Body Language’ Camel Publishing Company
- ・中野 道雄 昭和60 「ボディランゲージ辞典 大修館書店
- ・HOFFER, Bates, HONNA, Nobuyuki 1986 ‘An English Dictionary of Japanese Culture’ Yuhikaku Publishing Co Ltd Tokyo
- ・KOJIMA, Setsuko, CRANE, Gene A 1987 ‘A Dictionary of Japanese Culture’ Japan Times
- ・南 博 編 昭和55 「日本人の人間関係辞典」 講談社
- ・HEARN, Lafcadio 昭和62 ‘Japanese Smile’ Hokuseido Press
- ・COLLCUTT, M, JANSEN, M, KUMAKURA, 1988 ‘Cultural Atlas of Japan’ Phaidon Oxford
- ・MATSUMOTO, M 1988 ‘The Unspoken Way’ Kodansha International
- ・こたわぎ新辞典